



ASPCAのトラック。野良犬の捕獲・回収から去勢・避妊の出張手術までを行う

## シェルターとレスキューグループ

動物好きならアメリカの動物愛護団体に寄付をしたり彼らが企画するイベントに参加したりした経験があると思いますが、実際にボランティアでもしない限り、それぞれの団体の特色や活動内容はなかなか把握できません。しかし、実際にシェルターに足を踏み入れて見学するのは勇気がいるという声もよく聞きます。そこで今回はアメリカの動物保護施設のシステムを紹介します。

アメリカの動物保護施設は、行政が管理しているアニマル・シェルター（日本で言う保健所や動物愛護センター）と民間運営のアニマル・レスキュー団体の二つに大きく分かれます。わたしが長年ホ

多くあります。行政のシェルターには郡なり市なりから毎年の予算に組まれた運営費が回ってきますが、民間団体の場合、費用すべてを自分たちで調達しなければいけません。その多くは、寄付、アダプション費、グッズの販売などで賄われています。マンハッタンを拠点とするASPCAのように名前の知れた大きな団体ならば、動物好きの大口寄付主がたくさんついています。小さい団体は運営費調達に四苦八苦していることも多いようです。

運営の仕方や規模の大きさなどが違っても、全ての動物保護団体が共通して願っているのは、**自分たちのような施設がこの世の中からなくなる日が一日も早くきてほしい**ということではないでしょうか。動物保護のシステムに関わる人々はみな、日々捨てられた動物の世話をしながら、ホームレス動物というものがこの世から消える日を願っています。そのためには、一般の人々の意識と知識の向上が重要です。

次回は、以上のような施設にやってきました一匹のホームレス犬が新しい家を見つけるまでを追いつながらアダプションのシステムをお話したいと思いますので、どうぞお楽しみに。2012年も大好きな犬たちのためにさらにエネルギーを注ぎたいです！そして、みなさんの2012年が素晴らしい年となりますように！



寺口麻穂  
**ドギー  
パラダイス!**  
犬と人間の快適な生活

第31回

## アメリカのシェルター

在米24年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わると共に、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com



てらくちまほ

また行政のシェルターにしる民間の団体にしろ、景気が悪くなると運営費を集めるのが大変になります。不景気は動物の保護活動を難しくする上、経済的な理由で犬を飼い続けられなくなる人たちが増えて、結果的に放棄犬も多くなる、という悪循環を生みます。

## ノー・キル (安楽死なし)

行政のシェルターと民間団体施設の違いとして、安楽死の頻度も挙げられます。入ってくる動物の数をコントロールできない行政のシェルターでは、様々な理由で仕方なく安楽死を選ばなくてはなりません。大都市では保護期間を最長48時間とするシェルターもあり、收容された動物に与えられる時間が短いことが多いのです。こういった場合は、単に「殺処分」と呼ぶ方が正しいかもしれません。一方で收容数をコントロールできる民間団体では、「安楽死・殺処分せよ (No Kill)」という看板を掲げて運営しているところがほとんどです。